

2014年度JICA青年研修 「モンゴル 都市環境管理」コース

対象国：モンゴル

研修員数：11名

研修期間：2015年1月28日（水）～2015年2月12日（木） 18日間

果てしなく広がる草原と、遊牧民の住まいであるゲル、放牧されている羊・・・雄大な大地というイメージが広がるモンゴルから来勝した11名の研修員の受入を行いました。

上述したようなモンゴルのイメージは、残念ながら少しずつ姿を変えているようで、近年のモンゴルでは、厳しい寒気によ

り一晩で家畜を失い、一家の財産が消滅してしまうなど、遊牧生活による不安定さなどから、近年遊牧民の都市への定住化が急激に進んでおり、既にある市街地の周りをゲルが取り囲む“ドーナツ化”現象が進行し、“ゲル地区”と呼ばれる地帯が拡大しています。

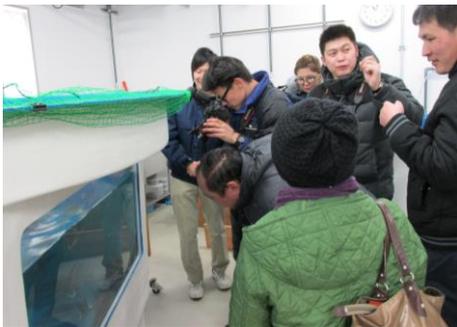
“ゲル地区”では、上下水道等のインフラが未整備であるだけでなく、ゴミの収集も行われず、暖を取る熱源は廉価で入手できる石炭や廃タイヤなど、燃えるものはなんでも燃やすという実状のため、衛生状態のよくない生活環境で日々を送る住民が増えているという課題があります。

また、市街地においても、ゲル地区と同様に、豊富な埋蔵量を誇る石炭を熱供給施設で大量に燃焼させ、その熱を市街地中に供給するというしくみにより各家庭で暖をとっているために、スモッグが発生し、顕著な健康被害が出ていること、また全ての水源を地下水に頼っているため、2030年には枯渇の危機を迎えるため、廃水を適切に処理し再利用することが必要とされていることなど、多くの課題の解決が求められています。

こうした課題に対し、廃棄物処理にかかる一般家庭から最終処分場までの流れや、上下水道のしくみ、これからの環境を守っていくこともたち世代への環境教育、市街地の緑化といった項目について様々な講師陣からお話をいただき、研修員は様々な学びを得て研修を終了することができました。

また、モンゴルでは畜産が盛んなこともあり、家畜廃棄物を活用したバイオガスプラントもを見せていただき、農村部における利活用はもちろんのこと、都市部で大量に排出される生ごみの利用も視野に、多くのことを学んでいました。

当協会の受託する青年研修は、十勝管内における各町村や関係機関など、皆様のご協力により実施しています。あらためてご協力いただきました皆様にお礼を申し上げます。今後も当協会は帰国研修員のサポートを行っていきたいと思いますので、引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。



御協力いただいた講師・関係者の皆様（敬称略・順不同）

八重柏泰志コースリーダー、帯広百年記念館、帯広市財政課、帯広市環境都市推進課、帯広市みどりの課、十勝環境複合事務組合くりりんセンターおよびうめーるセンター美加登、卯野興治様、帯広市清掃事業課、帯広市稲田浄水場および帯広川下水終末処理場、鹿追町農業振興課

どうもありがとうございました！

